

1. 法人本部

(1) 全体統括

2019年度は、中期経営計画のまとめに向けて取り組む一年となりました。安心して働き続けられる職場環境の整備を重点的にすすめてきましたが、過年度からの課題であった人事評価制度や給与制度の見直しには至らず、項目の検討のみに終わりました。また収益性の確保についても、年度当初より経営改善に向けた努力を重ねてまいりましたが、結果として三か年度連続で目標を達成できませんでした。

このような状況の中ではありましたが、補助金を利用した大規模な非常用発電設備整備や新しく広報を担当するR0（うるてるを面白くする）委員会を発足させ、具体的な提案がなされるなど、事業継続に向けた取り組みは着実にすすめることができました。

(2) 基本方針に基づく運営状況

①安心して働き続けられる職場環境の整備

ア. 人事評価制度の見直しに向けて検討を重ねてきましたが、制度設計には至りませんでした。目標管理や自己評価そのものについては、年々職員間で根付いてはきましたが、成長、育成を視点とした階層、職種、経験ごとのフィードバックの在り方については課題が残りました。

イ. 評価、育成の視点が十分ではない現行の給与規定の見直しにとりかかっていますが、制度変更には至りませんでした。「働き方改革」に対応した就業規則の一部変更を行いました。

ウ. 各部において時間外労働の削減目標およびノー残業デー実施状況などの検証を行いました。

エ. 育児休暇の柔軟な取得をすすめ、女性職員2名（うち1名は非常勤職員）、男性1名が取得中です。

②積極的な業務改善をもとにした生産性の向上

ア. 補助金等を活用し、移乗用介護ロボット2台、入浴用リフトを特養に導入しました。

イ. 社内ネットワークの推進のため、新しいグループウェアを導入しました。

ウ. 業務の限定化、簡素化を検討し、多様な人材確保について検討をし、一部実施することができました。しかしながら、障害者の雇用までには至りませんでした。

③事業連携のさらなる強化による組織力とサービス品質の向上

ア. 人材確保や利用者獲得のための広報を担当するR0委員会を立ち上げ、活動を行いました。今年度はホームページリニューアルのための検討を行いました。

イ. 第三者評価の受審を昨年度のデイサービスに続き、特養で実施しました。

ウ. 各事業部の相談員等が情報の共有化と可視化の取り組みを継続し、その中で「お客様の声」を集めることとしました。

エ. 全体職員研修として、刑余者支援事業者による講演と窪寺俊之氏の講演会をそれぞれ実施しました。

オ. 一年間の事故や苦情等を分析する苦情解決委員会を2020年3月25日に行いました。

カ. 南海トラフ大地震を想定した災害対策として、経済産業省の「石油ガス等災害バルク導入補助金」を利用してLPガス発電機を設置。電気、ガス配管の整備を行い、ナースコール、館内ネットワーク、電話設備の電源バックアップやおよび非常用照明、非常用コンセントを各フロアに設置しました。

④制度に捉われない地域の福祉ニーズへの積極的な対応

ア. ケアハウス入居者や地域住民を対象として、認知症サポーター養成講座を5回開催しました。

イ. 緊急対応が必要とされる高齢者について、相談機関と連携し一時利用の支援を行いました。

ウ. 四條畷市障がい者自立支援協議会のプロジェクトとして、通所困難な利用者の送迎支援トライアル事業を実施しました。

⑤中(長)期経営計画策定に向けて適切な収益性の確保

ア. 昨年度的大幅な減収、減益を受け、年度当初より事業部管理者と短期目標を設定し毎月検証を行ってきました。しかしながら、事業によっては収益の改善に至らず、課題が残りました。

イ. 事業ごとに行われる職制会議等において、収益改善に向けた取り組みを具体化し取り組んできました。

ウ. 各事業部において、所定労働時間内の業務遂行、消耗品管理や光熱水費の使用状況等について、職員一人ひとりがコスト意識をもって関わることを推進してきました

(3) 理事会・評議員会等

① 2019年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2019年 5月27日 第1回理事会 於：るうてるホーム

2019年 6月17日 定時評議員会 於：大阪教会

2019年 6月17日 第2回理事会 於：大阪教会

2019年11月29日 第3回理事会 於：るうてるホーム

2020年 3月27日 第4回理事会 於：大阪教会

② 監事監査は、2020年3月25日、5月19日に行われました。

(4) 設備整備（10万円以上）

- ・入浴用リフト 244千円
- ・移乗用介護ロボット（2台） 1, 256千円（うち補助金600千円）
- ・LPガス発電機等整備事業 10, 260千円（うち補助金4, 600千円）
- ・ネットワークサーバー 2, 216千円
- ・介護保険ソフト 5, 335千円
- ・ノートパソコン（2台） 306千円

(5) 2019年度事業概要（2020年3月31日現在）

① 実施事業数：16事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者総合支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業、計画相談支援事業

（市委託事業）

配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業

② 総事業費 602百万円（17年度613百万円）

③ 職員数 126名（うち非正規・嘱託62名）

2. 委員会報告

(1) 人材確保・育成委員会

① 活動方針

法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動しました。

② 活動状況

2019年度は、昨年度から継続して人材育成としての新規採用職員研修などのプログラムを企画・実施しました。法人説明会や職場体験も積極的に受け入れ、採用に繋げることができました。

③ 人材確保についての活動内容

- ア. 大学等の実習の受け入れ 7校
- イ. 就職フェア等へのブース出展 計2回 来訪者 計10名
- ウ. 法人説明会・見学会の開催 計11回 参加者 計11名
- エ. 体験就労、職場体験の受け入れ 計3名
- オ. 高校、福祉系専門学校、大学への求人票持参

④ 人材育成についての取り組み

- ア. 新入職員研修プログラム企画・実施
- イ. 他委員会との合同での研修会の実施
- ウ. 第三期東京老人ホーム・るうてるホーム合同研修 4名

(2) 危機管理委員会報告

①非常災害対策の推進

- ア. 福祉避難所については、四條畷市との課題共有を継続しました。2月には避難所協定施設で情報交換会を行い、今後も継続することを確認しました。また、3月にはMCA無線が設置されました。
- イ. 非常災害関連の研修等に参加し、対策や必要備品等について情報が得られるよう取り組みました。照明器具の買い足しをすすめると共に、法人としては非常用自家発電機を設置しました。
- ウ. 火災時の避難訓練及び水消火器による消火訓練を6/11(昼間想定)、10/23(夜間想定、消防署立ち合い)に実施しました。個々の避難経路や避難指示役割を明確にして訓練に臨んだためか、当日の動きはスムーズでした。また、音声誘導装置の音量調整を行い、訓練時に音環境を確認しましたが、思うような効果は得られませんでした。

②安全運転に関する取り組み

- ア. 11月には安全運転講習会を実施しました(28名参加)。今年度は四條畷警察署の方に講師をお願いし、改正道路交通法やその背景、運転の留意事項等について学びました。また、参加者間で運転に関するヒヤリハット事例を共有し、積極的に意見交換を行いました。
- イ. 春と秋に交通安全ポスターを用いて啓発活動を行いました。
- ウ. 事故件数は8件でした(2018年度は14件)。車の後方や側面に傷が入り、うち1件はもらい事故でした。また、運転マナーに関する苦情が2件あり、担当者と事例の振り返りを行いました。

③内部監査の実施

- ア. 今年度も、法人全体のコンプライアンスへの意識を高めることと併せて、内部監査を通じた委員の学びに力点を置いてすすめました。11月より4回の勉強会、打ち合わせ(想定問答を含む)を経て2月に内部監査を行いました。対象はデイサービスセンターでしたが、今年度は従来のやり方を変更し、過去の監査実施時の改善事項に重点を置いて、聞き取りや確認を行いました。改善事項は継続されており、その背景も含めて引き継ぎがされていきました。
- イ. 書類廃棄は例年通り実施しましたが、文書管理規程の検討には至りませんでした。

(3) 安全衛生委員会報告

①活動方針

施設の入居者、利用者および職員の安心、安全が保たれ、生活環境や職場環境がよりよい状態であるように健診や、感染症予防対策を実施しました。また、職員の安全衛生への意識を高め、知識やスキルを習得できるような研修を企画立案し、行いました。活動方法としては、メンバー13名を6グループに分け、グループ毎に各事業に責任を持って実施しました。

②定期健康診断

ア. 入居者健診 実施時期 8月5日 受診者数 ケアハウス・特養 計96名

イ. 職員健診 実施時期 9月6日、9月24日 受診者数 124名

実施機関 医療法人 朋愛会

ウ. 職員個別健康相談

健診結果に基づき、有所見の職員に対し、産業医の浦野医師に個別面談を実施して頂きました。昨年度の要面談者が25名と非常に多かったので、19年度は人数を12名に絞り込み、より効果的な面談にしていきました。

③インフルエンザ関連

ア. 予防接種実施状況 計 242名(入居者、利用者、職員など)

イ. 発症状況 施設利用者や職員のインフルエンザ発症者はありませんでした。

④研修実施

ア. 産業医による健診結果の見方と活用についての研修 20名受講

イ. 腰痛予防ヨガ教室1回 14名参加

ウ. AED救急救命研修(消防による) 29名

エ. 感染症対策研修 18名

⑤ガイドライン委員会

17年度から取り組んできた感染症予防・対策のためのガイドラインにつき、19年度に具体的な内容の検討を重ね、各事業部からの意見も取り入れつつ、完成することができました。感染症予防対策実施時にも方針が立てやすくなりました。

⑥メンタルヘルスチームの活動

職員が心身の健康を保ちリフレッシュするための余暇の活用にどんなことを行っているかを聞き、紹介する活動を実施しました。

(4) 地域交流委員会

①活動方針

地域との繋がりを作る目的で、るうてるフェスタの開催、ボランティア活動のコーディネートを推進しました。また、職員の福利厚生、メンタルヘルスを考え、働きやすい環境作りのため職員交流会の実施、第四期一般事業主行動計画の申請を行いました。

②活動状況

ア. ボランティア活動支援

法人全体で活動するボランティアを中心に進めました。

イ. 職員交流の機会の実施

職員間の交流をはかり繋がりを意識して、働きやすい環境づくり目標に、10月には「待ちぶせ喫茶」と題し、終業後の時間に喫茶を行い50名の参加がありました。

ウ. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画第四期の申請

目標1) 時間外労働の短縮、仕事と生活の調和の実現に向けた取り組み

目標2) 出産、育児等の理由で退職した職員への相談、支援を行う取り組み

目標3) 地域の子供との交流を通して子育てしやすい環境づくりへの支援の取り組み

エ. 四條畷西中学校職業体験受け入れ

6月に3日間、2年生6名の受け入れを行いました。高齢者、障害者の理解の座学や、車いすの体験、利用者とのふれあいを持ちながら進めることができました。

③るうてるフェスタの実施

ア. テーマを「元気ハツラツるうてるホーム 今日から始めよう「健康貯筋」としました。利用者、ボランティア、市内事業所と関わりを持ちました。今年は健康がテーマだったので、訪問看護事業所へ出演依頼をしました。一緒に創ることを目的に推進し、回を重ねるごとに関係を深めることができます。参加者400名(2018年比33%増)、市内事業所7施設、ボランティア5団体28名が関わりました。年々知名度が上がり、顔見知りの方が増えています。

イ. ジョイフルるうてる利用者の参加

プラモデルの寄贈があり、就労継続支援B型の利用者が販売を行いました。地域の方との交流を持つことができました。

ウ. バザーの実施

ケアハウス利用者から希望の声があり、取り組みを始めました。「どんなものを売りたいか、どんなものが売れるのか」を利用者のこれまでの経験から、方向性を確認しながら進めました。販売品作りでは、月に一度有志で集まっていたいただき、交流の機会となりました。

(5) RO委員会

①活動方針

楽しいところに人は集まるをキーワードにるうてるホームをおもしろくして、外部へ発信し、法人内での橋渡しをして、関係作りができるように働きかけていく。

②活動内容

ア. ホームページリニューアルの推進

外部へ情報を発信していくには、ホームページの充実が必須となることを念頭に置き、取り組みました。目的を利用者、職員の獲得とし、どんなホームページにすると人が集まってくるのかを、委員一人ひとりが、色々な業種のホームページをみてイメージできるように進めました。コンセプト、ブランディングの中で、大切にしたいことを明確にし、自分たちの価値、誇りを知る機会としても活用しました。

プロポーザルによる業者選定を行いました。

イ. SNSの活用の検討

コンプライアンスを意識し、コンスタントにストレスなく記事をアップしていけるような仕組みを検討しました。

3. チャプレン報告

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」(ヨハネ福音書 15:5)

るうてるホーム玄関ロビーにあるステンドグラスの『洗足のキリスト』に示されている、お客さまのニーズに心して仕えてゆくという1965年創設時のスピリットを継承してゆくことに努めてきました。

(1)「礼拝(神の御言)」中心の働き

①主日礼拝

毎週日曜日午後2時半より、多目的ホールで、JELC 関西地区や地域の牧師先生の協力を得ながら礼拝を行っています。毎回の出席者は30名前後で、月に一度はチャプレンが聖餐礼拝を担当しています。受洗されていない参加者も毎回10名前後おられるでしょうか、それらの方々には祝福をお祈りしています。しかし、新型コロナウイルスの感染防止のため3月から休止となっています。

②毎朝の礼拝

毎朝「聖書日課」を用いて行われる入居者を中心とした「朝の礼拝」も、るうてるホームをその最初から支えてきた祈りの時であり祝福の時です。10人~15人ほどの参加者ですが、これも3月からは休止となっています。ユニットによっては有志による自主的な祈りの時を持っているところもあります。

③葬儀・告別式

2019年度は、チャプレンとしては5名の方のご葬儀に関わらせていただきました。特に長く入居されて礼拝や聖研を共にしていたお二人の天王寺教会員が天に移されたことは大変寂しいことでもありました。

ホームの多目的ホールで行われるキリスト教の葬儀は、「わたしは復活であり、命である」と告げられた復活の主イエスを中心におられ、「死は終わりではなく、墓は終着駅ではない」という復活の慰めと希望の光に満ちたものです。そこでのホーム職員による思い出の言葉には心がこもり、故人のご生涯を想起させてくれるものとなっています。そして、「神ともにいまして、ゆく道を守り」という讃美歌を歌う中で行われる職員による献花と出棺も、参列する者(特にご遺族)の心に深く響き、忘れ得ぬ印象を刻印します。皆が見送る中でホームの正面玄関から棺が送り出されることも、るうてるホームの大きな特徴でありましょう。それはまことに見事な葬儀であり、長い人生を生き抜いてこられた方々が人生をまとめてゆくのに相応しいものであると思います。希望される方はどなたでもホームでの葬儀に与ることができることも大きな特徴と申せましょう。

④聖書研究

原則として月2回水曜日に、天王寺教会牧師とチャプレンが交代で聖書研究を行いました。

⑤召天者記念礼拝

19年度の特筆すべき行事の一つに、11月に初めて行われた召天者記念礼拝がありました。これは、聖卓の上に故人たちのお写真を並べ、召天者を覚えて祈る記念礼拝です。26名のご遺族を含め、入居者や職員を含めると60名を超える参列者を得て、大変心に残るものであったと思っています。久しぶりにホームに足をお運びいただいたご遺族の皆さんにも喜んでいただきました。今後とも大切にしていきたいと思います。聖卓の横に召天者の写真アルバムを置いてありますが、これも少しずつ整えてまいります。

(2) その他の働き

①牧師懇談会

主日礼拝でご奉仕くださる牧師を毎年お招きし、19年度は四度目の牧師懇談会を7月に実施しました。地域からは10名の牧師先生にご参加いただき、各事業担当者で現状について共有し、交流の時を持つことができました。

②リラ・プレカリア(祈りのたて琴)

18年度より、月に一度のペースでホームにおけるご奉仕が継続しています。これは看取りのケアという観点からも、スピリチュアルケアという観点からも、なかなか希有な働きであると思います。

③職員との関わり

毎年4月に行われる大阪教会での新入職員祝福式や、5月にホームで行われる設立記念礼拝等を通して、創立時のキリスト教精神を皆と確認しています。11月2日には職員のためのスピリチュアルケア研修会を行うことができました。

チャプレンとして私の専門を活かして、ターミナルケアやグリーフワーク、セルフケアについての関わりも心がけているところです。

4. ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

2019年度は1年間の退居者12名、退去の理由は自宅に戻られた方3名、特養2名、介護施設3名、入院4名、大病の為に入院中逝去された方3名。新しい入居者11名。昨年は19名の方が退居されたこともあり、今年度は見学者の対応、入居申し込み者への連絡等に迅速に対応することにより入居申し込み者の増加につながり、満室を維持することができました。

今年度の事業計画では「働き方改革」を最優先目標に掲げて業務の見直しを行い、日々の業務が効率的に行える仕組みを作りました。特に相談業務の内容には他の職員も対応可能な業務もあり、お互いに学びながら活動範囲を広げることができました。職員一人一人が自信をもって行動することが入居者の方々への安心と信頼に繋がります。意欲的に行動する姿に成長の兆しを感じています。

今年度は施設全体として、初の取り組みである「召天者記念礼拝」を行いました。これまでに施設を利用された多くの方々が無くなられています。その方々を思い起こし感謝の気持ちを表すために計画されました。チャプレンを中心にして当日までご家族やご兄弟の方々にお知らせして当日の礼拝にはおひとりおひとりのお写真を並べて、在りし日のお姿を思いつつご家族と共に祈りをささげることができました。お久しぶりでご家族にお会いして大変有意義なひと時を過ごすことができました。

今年の2月頃からは感染症（新型コロナウイルス）の予防対策として、施設全体で徹底した環境づくりが行われています。楽しい行事や、ご家族、ボランティアの訪問も控えたことで入居者の方々、に不自由をおかけしましたが、新しい発想のある時間と捉え、さらに充実した環境整備、災害対策に取り組んでまいります。入居者の皆様が緊急事態に柔軟に対応して下さっていることが感染症の発生を防いでいることに繋がっています。

(2) 事業実績

①利用状況

	2019年度	2018年度	差異
利用者数（延べ）	17,701日	17,147日	561日
入院日数（延べ）	560日	845日	▲285日
短期入所利用日数	39日	17日	22日
稼働率／対実員	97.2%	93.9%	

②入居者の現状（2020年3月31日現在）

（単位：人）

	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳以上	計
男性	1	5	3	5	0	14
女性	0	3	23	10	0	36

※最高齢：男 99歳／女 93歳

※平均年齢：男 81.8歳／女 84.6歳

③介護保険利用状況

（単位：人）

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男性	2	0	2	3	0	0	1	8
女性	2	6	7	9	1	0	0	25

④介護保険利用状況

	2019年度	2018年度	差異
訪問介護	275	214	61
訪問リハビリ	36	17	19
通所介護	250	222	28
福祉用具レンタル	164	135	29
訪問看護	49	40	9
短期入所	6	20	▲14
介護タクシー	11	3	8
計	791	651	140

5. 特別養護老人ホーム るうてるホーム

(1) 運営状況

日常的にケアの質的向上や職種間連携による健康管理に重点的に取り組んだ結果、のべ入院日数を昨年度比2割減にすることができました。特に入院者がいない月があったことはここ10年来なかったことで、ケアの質向上が具体的に現れた結果として大きく評価できるところです。またインフルエンザによる感染者も一人も出すことなく、日常の感染症対策の効果が現れたこととなりました。

組織的なかわりとして、救急対応のOJTによる習熟、ポジショニング研修など介護職のスキルアップ、業務環境の改善、チームワークの向上等、人的要因による体制が整わない中にあっても積極的に取り組むことができたことも評価できます。

特に19年度は第三者評価を受審し、事業の状況を客観的にとらえることで課題を明確にすることができました。業務改善、環境改善等への取り組み、課題解決やチーム力の向上を通じて、ケアの質的向上へと繋げることが期待されています。

(2) 事業実績 (定員50名)

	目標	2019年度	2018年度	目標との差異
のべ利用者数	17,386人	17,849人	17,553人	463人
稼働率	95.0%	97.5%	96.2%	+2.5%
平均介護度	—	3.9	4.0	—

※入院のべ日数は460日(18年度673日)、退居後の新規入居までの空室日数は49日(同61日)

※新規入居者は12名、退居者数は11名でした。

利用者の現況 (2020年3月31日現在)

年齢	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳以上	計
男	0	3	3	0	0	6
女	0	6	13	19	6	44

最高齢：男93歳 女105歳 平均年齢：男84.2歳 女91.0歳

利用年数	~1年	1~4年	5~9年	10~14年	15~19年	20年~	計
男	1	4	1	0	0	0	6
女	10	25	4	4	0	1	44

平均在所期間：3年9ヶ月

6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営状況

在宅生活の継続を目的とした事業所として、短期利用中の生活環境の改善、日中活動や個別支援を充実させるための課題を継続して検討してきました。年度当初から退職職員の補充ができず、人員配置が整わないままとなり、1ユニットのみでの運用となりました。他ユニット、他事業所からの応援ももらいながら、稼働は安定してきましたが、前年の4割減の稼働状況でした。

そのような中ではありましたが、入居待機者からの長期利用への道筋がついてきたことにより、利用者にとっては急激な環境変化にならずにスムーズに移行できるなど、丁寧なケアを心掛けながら対応を行うことができました。

(2) 事業実績 (定員20名)

	目標	2019年度	2018年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 2,635人	1,790人	2,667人	▲845人
	障害 2,196人	1,151人	1,913人	▲1,045人
稼働率	高齢 36.0%	24.5%	36.5%	▲11.5%
	障害 30.0%	15.7%	26.2%	▲14.3%

※一日当たりの平均利用は、801人(高齢4.9名、障害3.2名)でした。

※一ヶ月を超えて利用された方は、高齢13名、障害3名でした。また緊急利用はのべ12名でした。

※3月末現在の実登録者数は、高齢54名(男13、女41)、障害19名(男11、女8)でした。

※新規利用者は高齢14名、障害6名でした。

7. デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

19年度当初は、7月登録者100名を目指し、次月食事無料キャンペーンにて、新規5名の契約、るうてるフェスタで無料体験券の配布、ケアマネ体験会等を行いました。実績は95名と達成はできませんでした。

利用者満足度の向上の取り組みとしては、ポイントカード、生活リハビリの充実を行いました。ポイントカードでは選択できるメニューの幅を広げて、外出コースや、こつこつコースなど、利用者の反応に合わせてメニューを変化させています。生活リハビリでは、認知症のある方へ生活リハビリである家事の促しから、不安定な表情から笑顔になる場面や、掃除を職員と一緒にすることにより、一対一の関係が築けたりと、いろいろな生活リハビリの効果が見えてきています。

また、得意分野のアピールのため、認知症サポーター養成講座の通所全員受講（ドライバー含む）を行いました。この取り組みには、地域の福祉施設職員も参加があり、地域に開かれたものとなりました。

認知症地域支援推進員との連携により、市内高齢者の現状を知る機会になりました。18年度の第三者評価受審からは、リスクマネジメント会議をジョイフルるうてると連携し、4月からは、身体拘束廃止会議を発足し、9月に身体拘束廃止マニュアルを作成し10月から運用しています。

法人内連携としては、特養の人員不足を受けて、応援体制を構築しました。主に入浴介助に入り、入所と通所の違いを知ることができました。また、職員の顔を知ること、挨拶だけの関係から、会話を交わす関係になり、協力体制の強化に繋げることができました。

(2) 事業実績

	目標	2019年	2018年	目標との差異
のべ利用者数	9,862人	9,195人	9,173人	▲667人
稼働率（対定員）	90.0%	84.0%	84.2%	▲6.0%
体験利用者数	36人	51人	45人	15人
新規利用者数	—	32人	30人	—
新規利用者比率	—	62.7%	66.7%	—

8. 障害者多機能事業所 ジョイフルるうてる

(1) 運営状況

生活介護では、業務の効率化を目標にチームで取り組みました。全体で見えにくかった業務をマニュアル化し、可視化することができました。また、パソコン入力も対応できる職員を増やすことができ、効率化を図れています。個別支援計画では、月に一度ケース検討の会議をもち、利用者理解や、作成についても深めることができました。稼働率は、年間で平均109.2%となりました。

就労継続支援B型では、生活体験実習を進めることができました。るうてるホームへの就職実現に向けてアプローチを進めましたが、今年は繋げることができませんでした。継続して介護補助の業務を担い、人材を育てます。稼働率目標50%に対し、62.4%とすることができました。見学や、体験利用が増えています。また、交野支援学校との交流が多くなってきています。パイプを繋げ、利用者獲得も視野に入れ対応します。今年度の平均工賃は6,898円となりました。利用回数、時間が短い方や、通所が難しい方、軽作業のみの方等がいらっしゃることが理由として挙げられます。

日中一時支援事業では、昨年年間4日に対し、25日の利用がありました。利用者の身体の成長により、家族の体力的な負担が大きくなっているため、利用ニーズが高まっています。

(2) 事業実績

生活介護	目標	2019年度	2018年度	目標との差異
のべ利用者数	3,392人	3,368人	3,323人	▲24人
稼働率（対定員）	110%	109.2%	108%	▲0.8%

就労継続支援B型	目標	2019年度	2018年度	目標との差異
のべ利用者数	1290	1657人	1,174人	367人
稼働率（対定員）	50%	64.2%	46%	14.2%

9. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営状況

「住民が持つ力の証明」を地域支援のキーワードとして、地域共生社会の実現に向けて取り組みました。「専門職として能動的な思考と活動を覚悟」は職員全員が達成しました。「自分だけの価値観だけでなく共通理解を目指す」こと、「エビデンスを意識する」ことについては課題が残りました。

具体的な計画では、「地域支援活動の共通認識を持つ機会づくり」について、特に自分の持つ認識を発信する力をつけるため言語化することを目指しました。報告書や議事録等を作成することで、自己覚知や整理する能力向上には役立ちましたが、他者に伝えるためのツールとして活用するには課題が残りました。「権利擁護に関する活動を意識共有」については、権利擁護をテーマに、日常生活自立支援事業で困難になった事例をもとに、支援のあり方について考える個別会議を行いました。そこから意識を共有するため、研修会の開催等方法を変えて継続する必要があります。「所内や地域で、リーダーの役割を担う人材づくり」については、(5)人材育成に詳細を記載します。

(2) 事業実績

①包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業 (のべ件数)

	2019年度	2018年度
総合相談業務	956件	748件

イ. 権利擁護事業 (のべ人数)

	2019年度	2018年度
権利擁護に関する相談	53人	45人
高齢者虐待に関する相談	8人	15人

ウ. 包括的継続的マネジメント業務 (のべ人数)

	2019年度	2018年度
介護支援専門員支援に関する相談	35人	11人

②指定介護予防支援・第1号介護予防支援事業 (介護予防ケアマネジメント) に係る事業

ア. 2019年度実績

	介護予防支援	介護予防ケアマネジメント
ケアプラン作成数	1,374件	985件
うち委託件数	1,106件	763件
うち自事業所作成件数	268件	222件

イ. 昨年との比較及び目標との差異

	目標	2019年度	2018年度	目標との差異
ケアプラン作成数	2,180件	2,359件	2152件	179件
うち委託件数	1,700件	1,869件	1737件	69件
うち自事業所作成件数	480件	490件	415件	10件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 () は参加人数

	2019年度	2018年度
開催回数 (参加人数)	6回 (177人)	4回 (70人)

イ. 地域介護予防活動支援事業 () は参加人数

	2019年度	2018年度
通いの場開催 直接的支援	7回 (65人)	6回 (32人)
通いの場開催 間接的支援	12回 (34人)	—
その他の事業 (ボランティア活動支援等)	22回 (86人)	11回 (40人)
地域ケア会議	40回 (45人)	32回 (304人)

※今年度より直接的支援と間接的支援を分けて計上

④その他の事業（任意事業）

ア．家族介護支援事業

（ ）は参加人数

	2019 年度	2018 年度
家族介護教室	0 回(0 人)	15 回(90 人)
介護者家族交流会 開催支援	9 回(23 人)	—

イ．認知症高齢者見守り事業

（ ）は参加人数

	2019 年度	2018 年度
認知症に関する教室・講演会	1 回(10 人)	17 回(299 人)
認知症サポーター養成講座	10 回(265 人)	—
（うち、ジュニアサポーター養成講座）	1 回(111 人)	—
認知症サポーターステップアップ講座	1 回(31 人)	—

10. ケアプランセンターるうてる

(1) 運営状況

4月に1名が正規職員へ転換(常勤換算0.1増)、4月末で職員1名が退職となり5名体制での再出発となりました。

ケアマネジメントの質的向上については、介護保険適正化事業による保険者のヒアリングに伴う取り組みを相互点検として位置づけ、アセスメントからケアプラン作成、モニタリングまでの一連の過程における留意点を所内全員で話し合い、共通認識をもつことができました。11月にはここ数年の懸案事項であったアセスメント方式を変更し、業務見直しの検討を始めました。

看取りについては、事業所あるいはともしびプロジェクトの活動の一環として、内部研修や各所において積極的に実践発表を行い、看取りや利用者支援を通じた「チーム」の展開、在宅支援等について発信することができました。

また、ケアハウスにおけるオプション・サービスの利用方法や考え方を確認し、有償サービスとの整理が必要であることを理解しました。インフォーマル・サービスについては、検討の前段階として市委託事業について情報整理を行いました。精神疾患等を抱えた家族への支援については、8050問題や発達障害などをテーマとした研修会を市内の介護支援専門員と企画し、実施することができました。

総合相談機能の拡充については、障害利用者の支援において、法人内で課題共有し、連携することが定着しました。相談支援専門員の加配はできませんでしたが、人材確保に向けて、事業部として新たに障害関連の社会福祉士実習の受入れを始めると共に、関係者や養成校への打診を継続しました。社会貢献事業は6件の相談がありました。相談内容は複雑多岐にわたり、より一層関係機関と連携していく必要を認識しました。

人材育成のための環境整備としては、近隣事業所における事例検討会やケアマネ連絡会世話人会に積極的に参加し、関係機関と情報や課題の共有を行いました。また、大東・四條畷医療・介護連携推進協議会のワーキングチームに参加し、他機関との連携においてICT活用が一方策であることを体感することができました。

(2) 事業実績

①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2019 年度	2018 年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,514 件	1,385 件	1,526 件	▲129 件
介護予防ケアプラン受託数	480 件	432 件	450 件	▲48 件
一人あたり請求件数/月 ※1	33.9 件	31.0 件	31.0 件	▲2.9 件
一人あたり支援件数/月 ※2	38.0 件	35.2 件	35.0 件	▲2.8 件

※1…一人あたり請求件数＝{要介護ケアプラン数＋(介護予防ケアプラン÷2)}÷4.3(常勤換算値)/月

※2…一人あたり支援件数＝(要介護ケアプラン数＋介護予防ケアプラン)÷4.3(常勤換算値)/月

②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2019 年度	2018 年度	目標との差異
プラン数	390 件	304 件	295 件	▲95 件
請求件数	90 件	71 件	80 件	19 件

1.1. ヘルパーステーションのうてる

(1) 運営状況

ここ数年の事業実績を受け、利用者確保・定着に向けた取り組みに努めました。チラシの作成には至りませんでした。利用者獲得に向け、地域の事業所と意識的にコミュニケーションを図ると共に、サービス提供責任者による個別訪問を充実させ、新規利用者の定着を図りました。

るうてるケアの再構築については、ケアハウスの職員加配を受け、食事支援サービスから徐々に撤退すると共に、特養(短期入所)の人員減を受け、6月末より人的・技術的連携に向けて具体的な業務連携を始めました。特養担当者と業務内容について毎週打合せを行う中で、「顔の見える関係」の構築に努めました。短期入所において、利用者への多面的な生活支援のほか、入浴設備を活用したケアハウス入居者の入浴、日中活動を支援するボランティア調整など様々に試行する中で、各所のポテンシャルを体感できました。また、ご利用の方に心を寄せて事例検討を行い、ヘルパー間で話し合えたことも大きな成果でした。ご利用の方に合わせて早朝対応や細やかなサービス提供を行い、生活の質向上につながることができました。

サービスの質向上については、事故や苦情の都度要因や対策を検討し、所内で共有しました。偶数月(8月を除く)には内部研修を実施し、記録や栄養ケアのあり方等について学びました。

介護・生活支援サービスの充実については、7月に市の産前産後ヘルパー派遣事業(産前産後の利用者宅で育児、家事等支援)を受託しました。9月末に四條畷市初となる利用がありました。ヘルパーステーションの強みを存分に発揮し、新鮮な気持ちで取り組むことができました。有償サービスについては開拓の余地があり、考え方や実務の整理、文書化を目指していましたが、次年度に持ち越す課題となりました。

人材確保については、将来を見据え、介護福祉士実習の受入れを行うと共に、地域の小学校でのイベント参加などを通じて、市内事業所と連携する機会をもちました。人材育成については、OJTを継続する中で、サービス提供責任者が主体的に新規のフォローや同行訪問を実施できるようになりました。前年度の非常勤職員退職に加えて、登録ヘルパーの怪我や家族の看病に伴う勤務時間減など職員体制が厳しい時期もありましたが、職員一丸となってサービス提供に臨むことができました。

また、4月より地域支援事業部において管理者、部長で会議をもつようになりましたが、その中で運営状況や問題意識を共有しながら活動することができました。

(2) 事業実績

	目標	2019年度	2018年度	目標との差異
利用者数(月ごとのべ人数) (障害サービス利用者)	720人 (120人)	576人 (56人)	626人 (116人)	▲144人 (▲64人)
のべ訪問回数 (介護保険)	5,880回	5,501回	5,285回	▲379回
〃 (障害者)	1,220回	989回	1,200回	▲231回

1.2. 栄養

(1) 運営状況

19年度は安心・安全をベースに「食べること」で健康につながられるよう、可能な限りご利用者に合わせた栄養ケアを目指しました。食事が生活の潤いの一助となり、日々の暮らしの中で、楽しみのエッセンスになるよう行事食やイベント食の取り入れに工夫しました。

8月に保健所の栄養指導員による巡回指導を受けました。業務内容について全般的に調査がありましたが、重大な指摘事項や改善指導はなく、主に非常食などの危機管理の面でアドバイスを頂きました。

18年度に地震や台風などの自然災害が多かったので、改めて災害対策を見直し、設備の導入や発生時への備えを進めました。また、るうてるホームが地域から求められている役割の一端を担えるよう、行政機関や他施設との連携を強めていくことができました。

(2) 事業実績

事業所		上半期	下半期	2019年度合計	2018年度	2017年度
ケア	実食数	22,944	22,487	45,431	44,243	46,427

特養	実食数	27,917	27,435	55,352	60,009	56,221
	経管	2,465	2,461	4,926	3,924	3,465
デイ	食数	4,412	4,627	9,039	8,773	9,264
障害	食数	2,098	2,025	4,123	3,708	3,361
配食	食数	150	156	306	622	724

13. 事務課

(1) 運営状況

19年度の事業方針として、経営基盤の安定化への取り組みを重要課題として、財務状況の確実な把握と結果の共有による健全性の維持について注力しましたが、結果として経営の安定化については十分な成果を残すことができませんでした。しかし法人全体を見渡すことができる事業課としての利点を各々の担当業務に生かす働きに努めました。

業務の効率的推進については、現在行っている、業務内容ごとの担当者による事務遂行によって日常業務はスムーズに行うことができました。全体の業務遂行状況や目標達成度合いを、職員会議や日常的なミーティングにおいて共有し、今後の方針や課題についてオープンに検討しあうことで運営を意識した行動がとれています。

日々ホーム内外の様々な情報に幅広く接触する機会が多い部署であり法人内事業所間だけでなく、他法人、行政機関との対応を適切に行えるよう、法人の要の部署となるよう心がけて活動しました。

(2) 事業実績

①収入状況

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比 (%)	2018年度	2017年度
介護保険	343,140	339,499	98.9	349,837	343,187
利用料	139,353	137,765	98.8	139,741	136,315
診療報酬	4,700	4,722	100.5	4,887	13,374
自立支援	69,045	68,867	99.7	70,450	62,589
補助金・委託料	49,225	46,964	95.4	42,625	41,981
その他	6,221	5,750	92.4	8,852	6,568
合計	611,684	607,374	99.3	616,392	604,014

②支出状況

ア. 総合支出

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比 (%)	2018年度	2017年度
人件費	417,181	427,010	102.4	428,129	441,151
事務費	58,116	56,400	97.0	55,072	56,740
事業費	73,697	73,360	99.5	73,567	72,236
借入金返済	51,312	51,312	100.0	51,312	51,312
その他	29,360	29,360	100.0	14,872	11,025
合計	629,666	637,442	101.2	622,952	632,464

イ. 水光熱費等

	年度	2019	2018	2017
ガソリン消費量 (ℓ)	上半期	6,866	7,358	7,457
	下半期	6,881	6,552	7,049
	合計	13,747	13,910	14,506
水光熱費	上半期	15,441,952	15,548,783	13,847,453
	下半期	15,450,894	16,522,503	16,685,145
	合計	30,892,846	32,071,286	30,532,598

14. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

配食サービスについては、新規1名、終了1名となりました。リネンサービスは、昨年同様1名が継続利用でした。外出支援移送サービスは、今年度も利用がありませんでした。

市委託事業のうち配食サービスについては、くすのき広域連合本部より、8月にアンケート、1月にヒアリングがあり、問題提起を行いました。また、リネンサービスについては、制度上介護保険優先とされており、周知の面だけではなく、使い勝手の悪さが利用を阻害している側面もあることを認識しました。

(2) 事業実績

① 配食サービス

	2019年度	2018年度	差異
のべ利用者数	23人	44人	▲11人
配食数	284食	563食	▲279食

② リネンサービス

	2019年度	2018年度	差異
のべ対象者数	12人	15人	▲3人
のべ枚数	96枚	129枚	▲33枚

③ 外出支援移送サービス

	2019年度	2018年度	差異
利用実人員	0人	0人	—
延べ利用者数	0人	0人	—